

市内の伝統芸能・伝統行事(指定文化財)

- 入間川地区
 - 8月 お諏訪さまのなすとっかえ(入間川)
 - 9月 八幡神社鹿子舞(入間川) 裏表紙で紹介
- 入曽地区
 - 10月 入曽の獅子舞(南入曽)
 - 通年 入曽囃子(南入曽)
- 堀兼地区
 - 10月 上赤坂獅子舞(上赤坂)
- 奥富地区
 - 2月 梅宮神社の甘酒祭り(上奥富)
 - 通年 西方囃子(下奥富)
- 柏原地区
 - 通年 柏原祇園囃子(柏原)
- 水富地区
 - 通年 笹井豊年足踊り(笹井)
 - 8月 広瀬浅間神社の火まつり(広瀬)
 - 通年 広瀬囃子(広瀬)



文化財の歳時記のページはこちら

出掛けてみませんか



笹井豊年足踊り (市指定無形文化財)【笹井白鬚神社・笹井 1962】
 上演日 春・秋の祭礼(4月第2土・日曜日、10月第3土・日曜日)ほか
 見どころ 笹井囃子の演目の一つです。この踊りは演者が仰向けになって、左足にひょっとこの面と男物の衣装を着け、右足におかめの面と女物の衣装を着け、さまざまな仕草を演じてみせます。扇や傘を操るさまは見事です。

川越市の指定無形民俗文化財「南田島の足踊り」との見比べも面白い

入曽の獅子舞 (県指定無形民俗文化財)【入間野神社ほか・南入曽 640-2】
 奉納 10月第3土・日曜日
 見どころ 獅子舞は、入間野神社と金剛院に奉納されます。舞いの主役である3頭の獅子は、「りゅうがしら」「たつがしら」「ししがしら」と呼ばれます。水を連想させる波模様の前垂れ、また、背のうろこなど、水神の象徴である龍を模しているのも特徴です。

獅子舞の前後で見られる、六尺棒を操る「庭払い」も見逃さない



11日の夕方、祭りの最後に頭屋が胴上げされるのが珍しい

梅宮神社の甘酒祭り (県指定無形民俗文化財)【梅宮神社・上奥富 508】
 開催日 2月10日・11日
 見どころ 氏子を数組に分け、1組が1年ごとに輪番制で祭りに奉仕する頭屋制と呼ばれる形で行われている珍しい祭りです。10日に行われる饗宴型の宵宮では、杯を勧めては飲み干し、誂いをあげては再び杯を重ねます。



社会教育課 安井 智幸 主査

市内の各地区で見られるさまざまな無形の文化財は、昔から地域の人々の暮らしと密接な関係にありました。その昔、生活を立てるための仕事である生業が、人の力ではどうにもできない災害や、日照りによる作物の不出来に見舞われたとき、守ってくれるのは神仏であると信じられていました。神仏に五穀豊穡を願い、感謝する祭りは、生活の一部として毎年行われ、次の代に伝えられていきました。生業と自然のつながりが薄くなった今日、獅子舞やお囃子を、生活の一環として行う人は少なくなり、継承者の方々は、何とかしてこの無形の文化財を次の代に繋いでいこうとしています。こうした無形の文化財は、当時、儀式でも娯楽でもありました。獅子の力強い体さばき、笛の流麗な息継ぎなど、写真や動画のフレームに収まりきれない何かを、きっと感じる事ができると思います。まずはぜひ、会場でその情熱を感じてみてください。

地域に伝わる伝統芸能・伝統行事
 ふるさと狭山下温故知新



2月に行われる梅宮神社の「甘酒祭り」の大祭で奉納される「西方囃子」

市内には、多くの伝統芸能や行事があり、地域の人たちによって守られ、連綿と受け継がれてきました。これらは、地域の歴史や文化を理解する上で、欠くことのできないものです。今月は、特に重要なものとして市や県の指定文化財に指定されている、伝統芸能や伝統行事の一部を紹介します。

「なす神輿」(表紙写真)は、長さ約1メートルの張り子のナスを乗せたもので、とても珍しいものです。祭り当日は、子ども達が神輿を担いで地域を練り歩きます。古くから受け継がれてきた大切な伝統行事です。この伝統を守り、次の世代に受け継いでいくのが、私たちの役目だと思っています。



上諏訪自治会 品田利之会長

諏訪神社の横には、なすとっかえの逸話に登場する龍神が棲んでいたといわれる池が百年ほど前までありました。その池があった近くに水相神が祀っており、わずかに湧水が流れています。

水相神 現在では、農家が少なくなってきたことから、取り換えるのではなく、神前に供えてから販売しているナスを買って帰る人が多くなっています。



お諏訪さまのなすとっかえは、四百年以上前から行われているといわれる、伝統行事です。この行事の由来は、その昔、池に棲む龍神が夏病で苦しんでいたときに、ナスを食べたら治り、それを聞いた村人たちが、神社にナスを供え、龍神の健康を祝福するとともに、ナスをいただいて食べるようになったと言います。今は、自治会が主催する、諏訪神社の夏祭りとして開催しています。

お諏訪さまのなすとっかえは、四百年以上前から行われているといわれる、伝統行事です。この行事の由来は、その昔、池に棲む龍神が夏病で苦しんでいたときに、ナスを食べたら治り、それを聞いた村人たちが、神社にナスを供え、龍神の健康を祝福するとともに、ナスをいただいて食べるようになったと言います。今は、自治会が主催する、諏訪神社の夏祭りとして開催しています。

お諏訪さまのなすとっかえ (今月の表紙)